

令和4年3月11日

保護者の皆様
地域の皆様

さくらの学び舎 世田谷区立笛原小学校
校長 後藤真司

令和3年度 学校改善策についての結果報告

令和2年度の学校評価を受け、令和3年度は次の視点で学校改善を進めてきました。3つの重点目標及びその他の取組について、その結果についてご報告申し上げます。

1 重点目標Ⅰ：「主体的な学びを通した思考力・判断力・表現力の育成」に向けて

- 学習指導要領及び世田谷区教育要領の趣旨を踏まえた学習指導を行い、新しい教育の取組「せたがや11+」の実現を目指しました。その中では、主体的・対話的で深い学びにつなげる支援等、子ども一人一人のキャリア形成を図る支援が学校教育での使命と考え、知識・理解、思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度、そして、子どもたちが豊かな人間形成を図れるよう、子どもたちの育成に務めてきました。
- ◆ 主体的な学びと思考力・判断力・表現力の育成に向け、下記の内容について取り組みました。
 - 「めあて学習」を充実させ、見通しをもって学習活動に取り組めるようにするとともに、自分の学習を振り返る活動を計画的に位置付け、思考力・判断力・表現力の育成に努めました。
 - 算数科で、3年生～6年生では、算数少人数指導担当教員が加わり、学級数+1のグループ編成で、全単元・全時間で習熟度別の授業を展開しました。また、1年生・2年生では講師が学級授業に加わり学級担任とのTT体制で授業を展開しました。子どものニーズに応え、一人一人の学力の向上を図るとともに、個別学習や協働学習を通して、自ら考え、判断し、友達と話し合い、考える活動を通して、自ら問題解決に取り組む学習を進めました。
 - 学校図書館司書（民間委託業者）と連携・協働し、学校図書館を「読書」「学習」「情報」の3つのセンター機能面から整備し、一層の活用を図ってきました。各学期に読書週間を設け、本に親しみ、読書活動に取り組み、ことばの力を高める支援を進めてきました。
 - 子どもたちが学習への興味・関心を高め、学習内容の理解を深められるよう、学習用タブレット端末及びICTを効果的に活用し、「ことばの力を高める言語活動」を充実させ、子どもたちの個別学習・協働学習・一斉学習を支援しました。
 - 子ども一人1台の学習用タブレット端末を学校や家庭で効果的に活用し、双方向型の学習形態や個に応じた学習形態を視野に入れた授業づくりを進めました。
 - 朝読書の時間（火曜日・水曜日・金曜日の朝の時間）を確保し、読書の機会を広げ、言葉や本に親しむ活動を取り入れました。
 - 家庭と連携して計画的に家庭学習を進め、一人一人に応じた支援を、一層進めました。
 - 校内研究では昨年度の研究を土台に、学習指導要領が目指す「主体的・対話的で深い学び」の実現と教員の授業力向上を目指し、生活科・理科を中心に取り組みました。

2 重点目標Ⅱ：「多様性を認め合い、よりよい集団をつくる子どもの育成」に向けて

- これから国際化や変化の著しい社会を生き抜くためには、多様性を認め合い、相手を尊重

し、望ましい人間関係を構築することが重要です。コミュニケーション能力や社会性を高め、共生する社会の一員としての役割を果たす力を身に付けることを願っています。学校では、学級・学年を中心に、笹の子班活動・クラブ活動・委員会活動などの集団を形成する中で、将来に向けた数々の学びやキャリア形成を図ってきました。よりよい集団をつくり、その中で自己実現を図り、自己肯定感を高め、輝く子どもたちを育てるに取り組みました。

◆多様性を認め合い、よりよい集団づくりに向け、下記の内容について取り組みました。

- 毎月1週間の「あいさつ週間」を設定し、子どもたち・教職員はもちろん、保護者・地域の皆様にも協力いただき、校内だけでなく地域においても、気持ちの通い合うあいさつ活動を進めました。担当学年を割り振り、標語づくりやあいさつキッズとしての活動に取り組み、子どもたちのあいさつに対する意識が高まるとともに、日常でも活発なあいさつが行われています。
- 教職員も、すすんで明るく元気に爽やかなあいさつを率先して行いました。
- 感染対策のためマスク着用が続く中、大きな声ではなく、心を通わせるあいさつ、気持ちのよいあいさつをすることを全校で心がけ、日常のあいさつを大切にしました。
- 一昨年度からの取組『ふわふわ言葉』を大切にしようを継続し、美しいことば・相手を思いやることばを通して、「思いやりのある子ども」の育成に力を入れてきました。
- 各教科等の授業はもちろん、様々な行事や教育活動等で「人とかかわり合う活動」を計画的に取り入れました。保護者・地域・関係機関の方々の協力がとてもありがたかったです。
- 集団活動においても、自分のめあてをもって活動に取り組み、その後の振り返りを次につなげ、よりよいものにしようとする向上心を育む指導（キャリア・パスポート等）に取り組みました。

3 重点目標Ⅲ：「自分の健康に关心をもち、よりよい生活をつくる子どもの育成」に向けて

●世田谷区立小中学校全校で、体力向上・健康推進に向けた「世田谷3快プログラム～快眠・快食・快運動～」の取組が進められています。本校では、現在取り組んでいる体力向上・健康推進における特色ある教育活動をより一層充実させ、すすんで体を動かす運動や遊びとともに、食事や睡眠など日常生活との関連を図りながら取り組んでいます。新型コロナウイルス感染症の拡大が続き、様々な生活における制約がある中、感染対策を講じながら工夫を重ね、健康で楽しい生活を送ることができることを目指してきました。

◆自分の健康に关心をもって学校生活を送るため、下記の内容について取り組みました。

- 3密を回避し運動する機会を確保するため、休み時間や元気タイムの活動場所を工夫しました。また、活動内容や方法を工夫し、すすんで体を動かす機会と場をつくりました。
- 年間を通して「元気タイム（月1回）」を設定し、学年や学級の友達とともに運動や運動遊びを楽しみました。また、全学年で長縄跳びに年間を通して取り組み、みんなで楽しむ機会を体験し、遊びの日常化につなげました。
- 長縄跳び週間・短縄跳び週間・持久走週間を設け、めあてをもって運動に親しみ、挑戦する楽しさや達成する楽しさなどを体感し、運動への意欲と日常化につなげました。
- 学級遊びや笹の子遊び（縦割り班遊び）などを取り入れ、自分たちで遊ぶ・運動する機会をつくり、すすんで体を動かし、運動に親しむ取組を進めました。
- 体育学習では、感染対策を講じ、運動内容と運動量の確保を考慮して取り組みました。
- 体力・運動能力等調査を実施し、運動面や体力面での課題を確認し、自ら高めたい内容について確認し、めあてをもち運動に取り組むことの意識付けを図りました。
- 感染予防の意識をもち、自分の健康状況を把握するとともに、新しい生活様式の中で、適

切に実践できるよう支援をしていきます。

4 「地域とともに子どもを育む」ため、下記の内容について取り組みました。

- 子どもたちの安全を確保するため、毎月1回、下校指導日を設定し、通学路等での安全指導を行うとともに、地域の様子を見る機会を確保・実施しました。
- 昨年度からの始まった新しい教育の取組「せたがや11+（せたがやイレブンプラス）」を推進し、「さくらの学び舎」の桜丘中学校・桜丘小学校・桜丘幼稚園との連携を図り、保護者・地域と協働し、子どもたちの育成を図りました。
- 世田谷版「スタートカリキュラム」を活用して、新1年生の円滑な学校生活への定着を図りました。また、区立桜丘幼稚園との交流活動を通して、「アプローチカリキュラム」を具体化し、幼稚園教育と小学校教育の円滑な接続を図りました。
- 保護者・地域と連携した行事である「夏・秋祭りでの表現舞踊発表」「子ども縁日」「商店街と連携したペナント製作」「児童館・区民センターまつり」「どんど焼き」「地域の方々との交流」「もちつき会」など子どもたちの体験活動の充実を計画しましたが、新型コロナウィルス感染症拡大のため、「商店街のバナーフラッグの製作」のみの実施となりました。制約のある中、可能な体験活動の充実と連携を図ることができました。
- 学校支援コーディネーターと連携し、保護者・地域の教育力を活用した学習活動を取り入れる計画でしたが、感染症拡大のため見合わせました。1年生の「歩道花壇の花植え」は2学期に1回実施できたことで、子どもたちは喜んでいました。
- 学校運営委員会が核となり保護者・地域の協力を得て実施する体験学習や体験活動を、昨年度の取組を土台に計画し、今年度で4回目の「キャリア教室」と「漢字検定」を実施することができました。それぞれの体験が子どもたちの成長につながりました。

5 「共に子どもを育てる」ことを目指した学校運営と保護者・地域との連携の推進について

- 意図的・計画的な教育活動が展開できるよう、全教職員で創意工夫を重ね、「チーム笹原」として組織的・協働態勢で、信頼と誇りのもてる学校づくりに取り組んできました。また、「共に子どもを育てる」視点から保護者・地域の皆様と情報共有を図り、学校運営や教育活動へのご理解とご支援をいただき、「地域とともに子どもを育てる教育」を進めてきました。コロナ禍の中、従前の連携活動が十分できなかった点もあり、一日も早い収束を願うばかりです。

6 まとめ

- ◆今年度も、新型コロナウィルス感染症の感染拡大のため、宿泊行事や校外学習の延期、9月には分散登校の実施など、前年度と同様に教育活動への影響がありました。感染対策のための新しい生活様式の中での学校生活も継続となり、様々な制約のある中で教育活動を進めました。
- ◆5月の運動会では、実施時間や競技・演技内容、保護者参観方法を見直し、実施しました。また、11月の学習・学芸発表会では、子ども同士の鑑賞日を増やし、感染対策を講じて子どもたちの演技発表と相互鑑賞の機会を確保し実施できました。さらに、日常の学習活動でも様々な制約がある中でしたが、「今、できること」「今、しなければならないこと」を確認し、創意工夫を重ねて教育活動を進めてきました。

- ◆特色ある教育活動の1つである「笹の子班活動」では、異年齢集団活動のよさと成果が發揮され、子どもたちに所属感や連帯感、思いやりや協力の心を育むことができました。特に、12月に開催した「笹の子まつり」では、感染対策を講じる中、6年生がリーダーシップを発揮し、みんなで協力して楽しく達成感と充実感を味わうことができ、思い出に残る取組になりました。
- ◆昨年度の学校関係者評価委員会報告書で「気になる学年」として指摘のあった学年は、子ども一人一人の成長と改善も見られたとの所見をいただきました。コロナ禍の中、学校行事の延期や変更、学校生活での様々な制約もありましたが、そのような中で、よりよい学校生活を送ることができたと受け止めています。また、学校運営においては、学校運営委員会をはじめ保護者・地域の皆様に支えていただき、学校づくりを進めることができました。
- ◆今後も、新たに始まった教育活動等に関する周知、子どもの思いや願いを受け止め学習指導や生活指導に活かす積極的な取組、また、「共に子どもを育てる」視点での保護者・地域との連携など、創意工夫を重ね、信頼と誇りのもてる学校づくりに取り組んでいきます。

◎何より、子どもたちにとって「楽しい学校」「安心して過ごせる学校」であることを最優先に教育活動を進めました。保護者・地域の皆様のご理解とご協力をいただき、一日一日を大切に、子どもたちが元気に過ごすことができた1年間でした。感謝申し上げます。
ありがとうございました。